
インストラクター定例会（前期）報告書

交流分析インストラクター 丸山 昌志

H29年8月6日（日）ちよだプラットフォームにてH29年度インストラクター定例会（前期）に参加させて頂きましたので、概要を報告させていただきます。

1. テーマ：「対話分析活用法」

●講義 都甲敏久 准教授

① 対話分析のポイント ②対話分析と他ジャンルとの関連

●グループワーク 秋山壽美雄 インストラクター

「漫画の中のやり取りを分析し他ジャンルとの関連性を検討する」

講義は対話分析の基本から他ジャンルとも関連をわかりやすく解説頂き、自分が出す「刺激」に対する相手の「反応」を読み取りオプション等を用いてOK-OKの感覚を維持することが重要であり、以下の様に対話分析は交流分析の中核であることが再認識できました。

（1）対話分析は自我状態の理論の延長線上にあり、自分と相手の自我状態に気づくこと。

（2）一般のやり取りでは「反応」＝「刺激」となり、やり取りの連鎖ができる。

（3）ベクトルの方向によって「自我状態」「ストローク」「心理ゲーム」がわかる。

グループワークでは、漫画「釣りバカ日誌」の中のやり取りを交流分析的に考察して対話分析と他のジャンルとの関連性をグループ討議し発表が行われました。

我々が勉強してきたテキストではわかりやすい事例で理解できましたが、このワークから実際のやり取り（一脱したやりとり）は本当に複雑であり、人の受け取り方で分析が変わることなどを学び、2級受講者から質問が出やすい領域であることからこのような研修会で複数の意見を統合して理解していくことがインストラクションを行う上で重要であることに気づくことができ、今後も取り入れていただきたいワークと感じました。

2. 普及部会のテーマによるグループ討議

●「仲間を増やすにはどうしたらよいか」 伊東一郎 インストラクター

交流分析の仲間をどうしたら増やせるかをグループで討論し、私たちのグループで出た意見として、「交流を改善したいというニーズはたくさんあるはずで、紹介・入門講座等をPRする時が大事で協会の名刺があればもっと受け入れられやすくなるのでは？」「ほかのサークル活動の一部としてTAを紹介しては？」などとても活発な討論ができ、自分としても何とかして役に立てればと考えさせられ、とてもいい一日を構造化することができました。

